

2019年度 第4回 ランチタイムフリートーク 報告書

1. 主 催 外国語学部
2. 講 師 名 安達 祐子 教授 (外国語学部ロシア語学科)
3. 日 時 2019年7月23日(火) 12時45分～13時20分
4. 場 所 2-915 (英語学科会議室)
5. 出 席 者 17名
(出席者詳細は別紙)

6. 内 容

1. プーチン時代のエネルギー政策

2000年にエリツィンに代わり大統領の座に就いたプーチンは、ソ連崩壊後に進められてきた市場の自由化や民営化の方針を見直し、経済への国家介入を強める政策を打ち出す。とりわけ積極的な介入が行われたのは、石油やガスといった資源エネルギー部門である。こうした政策の成果は、ロシアのトップ10に名を連ねている企業の半数以上が国営であることにも表れている。

2. 国家コーポレーション・ロスアトム的发展、動向と展開

国家の経済介入を促進するために設立されたのが「国家コーポレーション」である。「国家コーポレーション」は、政府が主導する非営利組織でありながら、傘下の子会社は営利企業を含むという特殊な形態を取っている。この「国家コーポレーション」の1つがロスアトムであり、ロシアの原子力産業を統括している。2007年に民間部門、軍需部門、研究教育部門を統合することで成立したロスアトムは、指揮管理体制の一元化やマネジメントの効率化などを通して、グローバル展開、技術革新、安全性の向上といった目的をスムーズに追行することが求められた。ロスアトム設立の成果は、一つにその積極的な海外展開に現れている。ロスアトムは目下のところ海外で36の原子炉の建設を手掛けているのである。ロスアトムの海外への事業展開の成功には、ウランの製造から原子炉の建設・発電にいたるまでの一切をロスアトムの子会社アトムエネルギープロムが手掛けている点にある。こうした原子力発電のパッケージ化は、原子力発電を未導入の国の参入を容易にしていると言える。また、日本にも廃炉ビジネスを見越して支社が設けられており、ここにもロスアトムの幅の広い

事業展開の一例を伺うことができる。

【フリートーク】

A先生：どのような発想から国営化が推進されているのでしょうか。

→すべての分野で一様に国営化が促進されているわけではありません。金融企業については、自由化が大きく進めています。プーチンが資源部門における国家の介入を進める理由として、ロシアの経済が資源に大きく依存していることがあります。

【司会：B先生のコメント】

今回のランチタイムフリートークでは、安達先生がロシアのエネルギー資源問題を中心に「国家による経済への関与」といったテーマを取り上げました。エリツィン大統領の民営化政策の代わりに、プーチン大統領は資源の国営化を進め、国策会社である国家コーポレーションを設立しました。その一例として、国家原子力コーポレーション「ロスアトム」の事例を紹介してくださいました。ロシアの国家コーポレーションは、政治と経済の融合を表す一方で、資源に大きく依存しているロシアにとっては、ある種の安全保障を守る手段であるとも言えます。安達先生のご発表を通して、世界各国の政治・経済制度の多様性について考えさせられました。また、地域研究を専攻している学生に対して世界各国の事例を紹介することの重要性に気づきました。

以 上